

体液 - 洗浄液

(TTW、BAL、咽頭ぬぐい液、尿路洗浄液など)



提出が必要な主な構成要素

- 染色済みの直接（未濃縮）調製
- 染色済みの沈渣（濃縮）調製

利用可能な場合、強く推奨

- 集細胞遠心装置による調製

体液サンプルの採取

体液サンプルは、速やかにEDTAチューブに入れるようにしてください。体液が十分に残っている場合、一部を赤いキャップのチューブに分注します。

EDTAチューブ内の体液は、スライド調製に使用します。赤いキャップのチューブの体液は、培養検査など、追加の検査に必要な場合があります。

細胞遠心分離の調製

集細胞遠心装置は、リファレンスラボで使用される特殊な遠心分離機で、洗浄液などの細胞密度が非常に低い液体をスライドの小さな円形領域に濃縮するために使用されます。この調製手法は、細胞の完全性を維持するのに役立ち、病理専門医による評価のために細胞が利用可能であることを確実にします。また、スキャン時間が著しく減少します。

クリニック内で利用できるように、小型の集細胞遠心装置が販売されています。

直接（未濃縮）調製

1. 鉛筆でスライドに直接ラベル付けを行います。
2. EDTAチューブの体液を数回穏やかに転倒混和し、よく混合されるようにします。
3. スライドのラベル端の近くに体液を滴下し、血液塗抹法を用いて体液を展開し、フェザードエッジを確保します。
4. 迅速にスライドを乾燥させます（ヘアドライヤーの冷風を使用することができます）。熱を加えないでください。
5. スライドを染色し、乾燥させます。
6. 提出前にイメージンオイルを滴下し、カバーガラスを付けます。

沈渣（濃縮）調製

1. 沈渣用のスライドを鉛筆でラベル付けします。
2. よく混合された体液を遠心分離用に別のチューブに分注します。
3. 体液を遠心分離して上清をデカントし、少量の残った液体に沈殿物を穏やかに再懸濁させます（尿沈渣の調製と同様）。
4. スライドのラベル端近くに沈渣を滴下し、血液塗抹法を用いて体液を展開し、フェザードエッジを確保します。

直接調製のステップ4~6を行います

提出

どのスライドが直接調製で、どのスライドが沈渣調製かがわかるようにしておきます。

スキャンする

- スライドのサンプル面がスキャナーレンズ方向に上を向いていることを確認します
- スライドロックがかかっていることを確認します
- スキャナーの移動を妨げるものが周囲にないことを確認します（作動中の遠心分離機を含む）